

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の参加状況

第4学年 国語83人 算数83人 理科83人

第5学年 国語91人 算数91人 理科91人

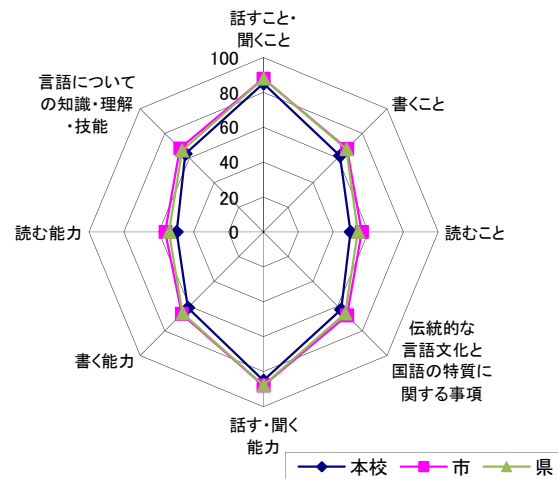
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	85.1	87.9	87.8
	書くこと	61.9	67.6	67.1
	読むこと	49.8	56.3	54.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.8	67.6	66.0
観点	話す・聞く能力	85.1	87.9	87.8
	書く能力	61.3	66.3	65.7
	読む能力	49.8	56.3	54.1
	言語についての知識・理解・技能	63.3	67.7	66.0



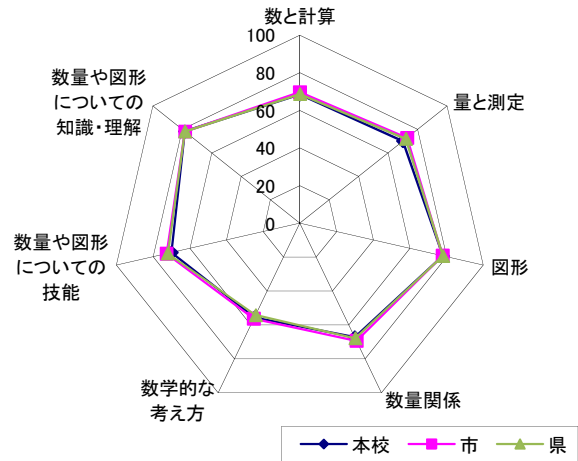
★指導の工夫と改善の状況は、問題の内容別正答率で具体的に示した

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・話の内容の聞き取りは85.1%で、県や市の平均正答率にくらべやや低い。互いの考えの共通点や相違点を整理して聞く問題では、県の平均より、7%低かった。	・学習全般だけでなく生活の中でも、人の話を集中して聞く態度を育て、話し手が言いたいことを意識して聞くことができるように指導する。 ・自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら聞くことができるようにするために、短い言葉でメモを取るよう指導する。
書くこと	・作文では61.9%で、県や市の平均正答率より約5%低い。招待する手紙で、来てくれるようお願いする言葉が抜けていた。また、敬体で書くことができなかった。	・教科及び総合的な学習の時間、学校行事などでお世話になった方々に手紙を書くことが数多くあるので、今後も継続していろいろな場面で作文を書く機会を取り、指導する。 ・作文を書くときには、何についての作文を書くのか趣旨を明確にとらえ、趣旨に沿った文が書けるよう指導する。
読むこと	・説明文の読み取りでは57.0%で、県の平均とほぼ同じである。接続語の問題では74.7%で、県平均より7%高い。しかし、目的に応じて内容を読み取る問題では42.2%で、県平均より9%正答率が低い。 ・物語の読み取りでは、県平均とほぼ同じだが、45.0%と正答率が低い。場面の様子を叙述をもとに読む問題では、25.3%で、県平均より7%正答率が低い。	・説明文の構造を考えたり、形式段落ごとの内容を短くまとめたりできるような学習プリントを活用し、筆者の意図を明確にとらえられるように指導する。また、事実と意見を区別しながら読む訓練を繰り返し行う。接続語や指示語についても具体的な例を示して理解させる。 ・物語に興味・関心をもてるように、朝の読書タイムで様々な物語を紹介したり、学校図書館の積極的な活用を促したりする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・漢字の読みは69.1%で、県平均とほぼ同じである。漢字の書きは61.4%で、県平均と比べて約6%低い。 ・言葉の学習では、県の平均とほぼ同じだが、59.0%と正答率が低い。特に、反対の意味の言葉(44.6%)とローマ字(53.0%)の正答率が低い。	・全授業において積極的に漢字を書くことを意識させ、授業を行う。また、国語スキルタイムや宿題、自主学習の中で、既習漢字の読み、書きの練習を繰り返し行う。漢字辞書を使うことを奨励し、言葉の由来なども学習させる。 ・ローマ字の学習では、ゲームを取り入れることにより、意欲を高め、個に応じた習得を目指す。関心のある「地名」や「人名」を取り上げ、日常生活での活用を図ったり、継続的にワークシートやノート、フラッシュカードを使用したりして定着を図る。

宇都宮市立緑が丘小学校第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.4	69.6	68.7
	量と測定	70.0	72.8	72.0
	図形	78.0	77.8	78.0
	数量関係	67.2	69.4	67.8
観点	数学的な考え方	55.6	56.3	54.2
	数量や図形についての技能	70.0	72.7	72.0
	数量や図形についての知識・理解	78.3	78.2	78.1



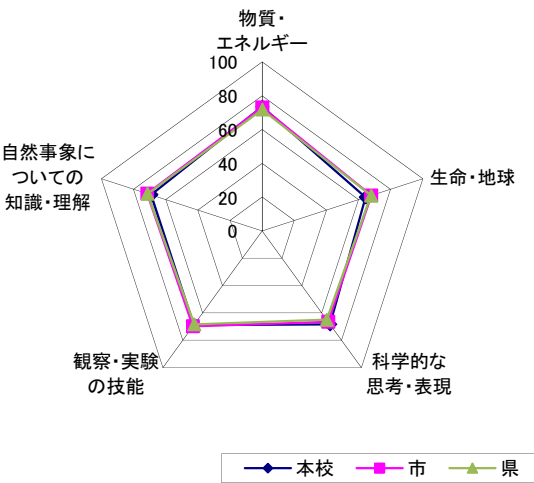
★指導の工夫と改善（本年度の状況は、問題の内容別に具体的に示した）

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・加減乗除の計算の平均正答率は68.4%で、県市をわずかに下回っている。たし算の計算は少し上回っているが、「4位数—4位数=4位数（波及的繰り下がりあり）の計算」では下回っている。「数直線上に示された分数の表し方」についてはやや上回っているが、「整数—1/10の位までの小数の計算」と「分子が1の分数が何個で1になるか」はやや下回っている。	・基本的な計算技能がまだ定着していない児童が多いので、スキルタイムの時間、宿題などで基礎基本の定着を図りたい。また、ちょっとした計算ミスも目立つので、もう一度よく見直しをする習慣を身につけさせたい。
量と測定	・本校の平均正答率は70.0%で、県・市の平均正答率を下回っている。「身近にあるものの重さを推察する」問題では、県平均よりも少し下回っている。「時間の分と秒の単位関係の理解」は県平均よりも上回っているが、「ある時刻から一定時間前の時刻を求める問題」は大きく下回っている。「往復料金から電車かバスのどちらに乗ったかを判断し、理由を説明」する問題も32.5%と低くなっている。	・身近にあるものの重さを実感できない児童もいるので、はかりで実際に重さを図る活動に時間をかけ、重さに関する感覚を身につけさせたい。基本的な時刻や時間を求める問題ができない児童には、スキルタイムの時間や宿題などで基礎基本の定着を図りたい。また、情報量の多い文章問題になると読み取れない児童も多いので、求めることと分かっていることをはっきりさせて文章問題に取り組ませるようにしたい。
図形	・本校の平均正答率は78.0%で、県平均と同じである。「二等辺三角形の定義の理解」は県平均よりやや上回っており、「正三角形の作図」の問題は若干下回っている。	・作図につまずいている児童もいるので、作図の仕方について再度確認し、自主学習などで取り組ませたい。
数量関係	・本校の平均正答率は67.2%で、県平均とほぼ同じである。「□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶこと」は37.3%と低くなっている。「棒グラフを読み取り、提示された条件に該当する項目を示すこと」は市の平均とほぼ同じだったが、「棒グラフから冊数の違いを読み取ること」が大きく下回っている。	・文章問題の立式が苦手な児童にとっては、□の式を見てそれに合った文章問題を選ぶ問題は難しい。今後まとめの時間などを用いて四則の意味を再確認し、文章問題を解くときにキーワードに着目して立式をさせたい。そのうえで、□を使った式の表し方や求め方などを理解させ、活用できるようにしていきたい。グラフを読み取る活動では、今後棒グラフの数量や違いについて丁寧に読み取らせていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	73.5	73.1	71.8
	生命・地球	64.4	67.9	67.8
観点	科学的な思考・表現	68.4	66.5	65.0
	観察・実験の技能	68.9	69.7	68.4
	自然事象についての知識・理解	69.1	71.6	71.4



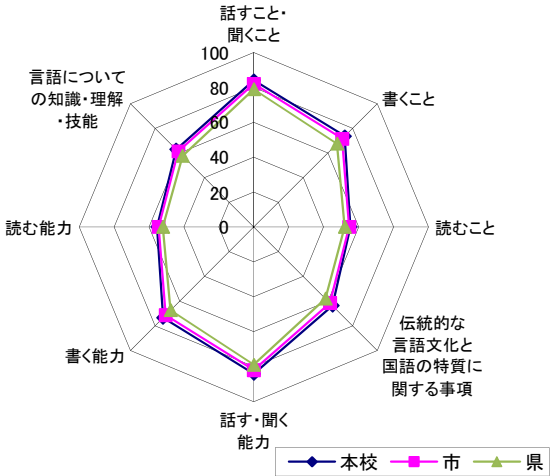
★指導の工夫と改善度の状況は、問題の内容別正答率で具体的に示した

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・全体に県や市の平均正答率より上回っていた。（以下、県の平均正答率と比べて示す。） ・複数枚の平面鏡で集めた日光の暖かさの問題が0.8%, 虫眼鏡で集めた光の明るさと暖かさの問題が1.0%上回っていた。 ・ものの重さについて条件を変えたときのてんびんのつり合いを考える問題が、4.0%上回っていた。 ・風の強さと紙コップが動く距離の問題が、3.7%下回っていた。ゴムの力と車が走るきよりの問題が、1.5%上回っていた。 ・銅の性質を利用し、じしゃくにつく物とつかない物に分ける問題が、11.6%上回っていた。 ・「回路」の用語を記入する問題が4.5%, 電気を通すものと通さないものを分ける問題が2.5%下回っていた。 ・ソケットを使わず豆電球に明かりがつく導線のつなぎ方の問題が20.5%, 豆電球の点灯の有無から回路の様子を推測する問題が5.4%上回っていた。	・風の強さと紙コップが動く距離については、日常生活の中で、風の強さによって物の動く距離に違いが生じた体験と実験を結び付けて考えるとよいことを理解させるようにする。 ・4年「電気のはたらき」の中で、「回路」の用語を復習する。 ・4年「電気のはたらき」の実験の中で、電気を通すものと通さないものの復習を行い、知識の定着を図るようにする。
生命・地球	・全体に64.4%と県・市の平均正答率より下回っていた。 ・昆虫の飼育の問題が6.0%, 昆虫によって変態の仕方が異なる問題が1.1%。昆虫と昆虫以外の虫を区別する問題は9.2%と大きく下回った。 ・身の回りの植物の種子と育ったようすの問題が2.8%, 身の回りの花のようすの問題が4.9%, 目的に応じた観察カードの記入の仕方の問題が2.3%下回っていた。 ・観察で虫眼鏡を正しく使う問題が6.6%下回っていた。 ・身近な生物の生息場所の条件の問題が3.5%, 身近な生物の生息場所の問題は12.8%と大きく下回っていた。 ・日なたと日かげのでき方の問題が8.6%, 日なたの地面の明るさと湿り具合の問題が3.6%, 1日の太陽と影の動きの関係の問題が1.4%下回っていた。	・4年「生き物のくらし」の学習で、次のことを復習し定着を図る。 ・いろいろな昆虫の育ちや体のつくりを調べたり、昆虫がすんでいるところの様子をもとに飼い方を考えたりして、知識の定着を図るようにする。 ・異なる植物の成長の様子を比較することで、共通する成長やそれぞれの植物の特徴について理解できるようにする。 ・観察カードは、実際の観察で、植物の成長の変化を記録することが目的であることを理解できるようにする。 ・虫が見つかった場所の共通点を考えてみることで、「食べるものがあるところで見つかる」など、周辺環境とのかかわりがあることを理解できるようにする。 ・4年「1日の気温の変化」の中で、太陽の動きは東から南を通して西に動くことを確認し、影の向きは太陽の反対側にできることを復習し理解できるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.1	82.0	78.9
	書くこと	73.6	71.5	67.4
	読むこと	55.4	54.6	52.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.8	61.7	58.1
観点	話す・聞く能力	84.1	82.0	78.9
	書く能力	73.6	71.5	67.4
	読む能力	55.4	54.6	52.1
	言語についての知識・理解・技能	62.9	61.3	57.7



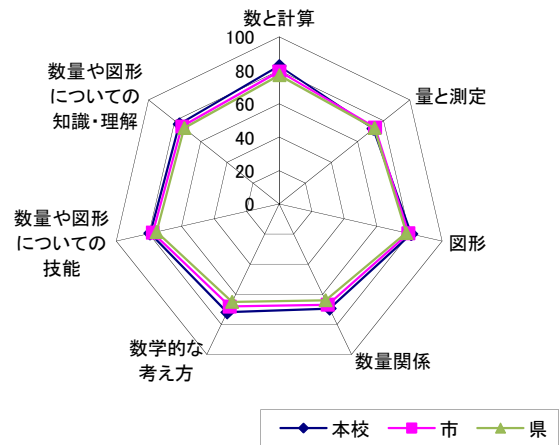
★指導の工夫と改善度の状況は、問題の内容別正答率で具体的に示した

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	- 話し合いの内容の聞き取りでは、県・市の正答率を上回っている。 - 司会者の話し合いの進め方の工夫についての理解項目で県の正答率を9.5%上回った。	- メモを取りながら聞きとりをしたり、話し手が最も言いたいことを意識して聞いたりすることができるようにしたい。そのためには、日常生活の中で一回で正確に聞くように、多くの機会を設定し、大事なことを落とさず聞く訓練をしていく。 - 朝の会のショートスピーチや授業での友達の発言内容について、話し手がどのような意図をもって話しているのか意識させながら聞き取るよう指導していく。
書くこと	作文の問題では、県・市の正答率を上回っていた。指定された長さで文章を書くことが7.2%、2段落構成で文章を書くことでは9.1%県の正答率より上回っている。自分の意見を明確に書くことは4.7%上回っていた。	- 作文学習の基本である段落構成の仕方をしっかり理解させるとともに、作文を書くとき、段落を意識して書かせるようにする。 - 日常の出来事や身近な話題について意図的に書かせる機会を設け、書くことに慣れさせるようにしていく。
読むこと	- 説明文の内容の理解では、どの項目も県・市の正答率を上回っていた。特に、目的や必要に応じて、中心となる語をとらえることが県の正答率より10.1%、文章の内容の読み取りが5.8%上回っていた。 - 物語の内容の理解では、県・市より5.2%上回っている。特に場面の様子を叙述をもとにして読むことは、9.9%上回っている。	- 形式段落から意味段落へと文章の構成を図式化するなどして正しくとらえさせる指導を継続していく。 - 指示語や接続語を手がかりに文と文との関係を的確に把握するなど、説明文の読み取り方を指導していく。 - 読書タイムの充実を図り、読書の楽しさに気付かせたり、本の紹介をし合う活動を通して、いろいろな本に出会うように支援していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	- 言葉の学習では、県・市の正答率を上回っている。特に、修飾語の理解は県より10.9%、慣用句の使い方の理解は7.3%、漢字辞典の使い方の理解は9.6%上回っていた。 - 漢字を書くでは2.5%、県の正答率を上回った。読む方では、「努める」が15.7%、書く方では、「養う」が10.3%と大きく上回っていた。	- 漢字の習得につながる学習方法を紹介し、家庭学習における漢字練習を充実させるようにする。また、漢字ミニテストを継続して行い、習熟の成果を確かめながら定着を図るようにする。 - 授業や朝の学習の中で、漢字辞典を引く機会を多く与えて、漢字辞典の使い方を習得させていく。

宇都宮市立緑が丘小学校第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	82.7	79.3	77.1
	量と測定	72.2	73.4	72.9
	図形	81.1	79.4	78.0
	数量関係	69.5	67.0	64.0
観点	数学的な考え方	72.0	68.2	65.1
	数量や図形についての技能	79.3	77.7	75.4
	数量や図形についての知識・理解	76.5	74.5	72.8



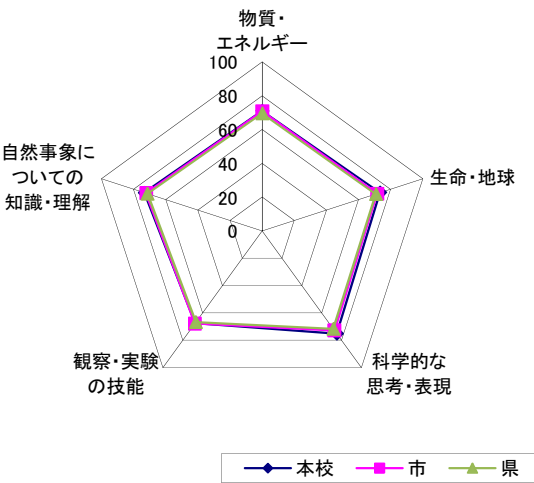
★指導の工夫と改善度の状況は、問題の内容別正答率で具体的に示した

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・数と計算の領域では、82.7%と県・市の平均正答率を上回っている。 ・3位数÷2位数の計算が県の正答率より12%、「倍とわり算の文章問題を表した図を選ぶことができる」が7.9%、「図を使って倍とわり算の文章問題に合った式を選ぶことができる」が11.7%上回っている。 ・3位数×2位数の計算が県・市の正答率よりわずかに下回っている。	・スキルタイムのドリル練習により計算の習熟に成果が見られたので、今後も継続していく。 ・文章問題については、線分図などを用いて正確に立式できるように指導していく。
量と測定	・量と測定の領域では、72.2%と県・市の平均正答率よりわずかに下回っている。 ・長方形の面積を求める問題では、県の正答率より1.5%上回っている。 ・面積の㎡とcmの単位の関係、角の大きさの検討の問題がわずかではあるが下回っている。	・角の性質や面積を学ぶ際には、実際に測定したり体験したりする活動をもっと増やし、量に対する感覚をさらに磨いていきたい。
図形	・図形の領域では、81.1%と県・市の平均正答率より上回っている。 ・三角形や四角形の内角の和を理解し、1つの角を求めることは、県の正答率より5.7%、3%と上回っていた。 ・合同な図形の性質がわかることでは2.1%下回った。	・図形の問題について、基礎的な知識や技能は身に付いてきているといえるが、多角形の内角の和の求め方や合同の条件については作図の復習などを通して定着させる。
数量関係	・数量関係の領域では県・市の平均正答率を上回るも69.5%と低い。 ・文章問題を解くために四則混合の式を立式し、その式から正しい答えを求める問題は県の正答率より1.6%、四則混合で()を用いた計算順序を問う問題は8.7%、分配法則の理解では1.3%、表にあてはまる数を求める問題は4%、伴って変わる二つの数量を式に表す問題は7.2%上回っている。 ・二次元表を読み取り、対象の場の意味を説明する問題では10.9%、折れ線グラフの読み取りが3.3%、棒グラフと折れ線グラフを比べて、変わり方の違いから2つのグラフが同じではない説明をする問題では3%上回っている。	・計算のきまりは覚えているが、式を見てきまりを活用する問題を苦手とする児童もいる。今後、まとめの時間などに四則の意味を再確認し、文章問題の立式の練習をさせていきたい。 ・グラフの読み取りが不得意な児童には、折れ線グラフや二次元表を読み取り、読み取ったことを利用する問題に多く取り組ませていく。

宇都宮市立緑が丘小学校第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	71.0	70.8	69.5
	生命・地球	73.4	71.5	70.8
観点	科学的な思考・表現	75.1	72.8	71.7
	観察・実験の技能	67.4	67.8	66.8
	自然事象についての知識・理解	73.3	72.3	71.4



★指導の工夫と改善度の状況は、問題の内容別正答率で具体的に示した

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・空気と水の性質では、県の正答率と比べて、「閉じ込めた空気を圧するときの体積や押し返す力がわかる」が2.1%、「空気と水を一緒に閉じ込めたとき、それぞれが押し縮められるかどうかを考える」が13.6%、上回っている。 ・金属、水、空気と温度の問題では、「空気や水を温めたときの体積の変化がわかる」が3.4%、「水は熱せられた部分が上方に移動して全体が温まる」が3.6%、「さまざまな形状の金属を熱したときの温まり方について考える」が2.5%、「水が沸騰したときに水中から出てくる泡が水蒸気であることがわかる」が11.2%県の平均正答率より上回っている。しかし、「水が氷になると体積が増えることがわかる」が10.1%も下回っている。 ・2個の乾電池を直列つなぎにする問題では0.3%、「光電池の光の当たり方と電気を起こす働き」の関係から、実験結果を推測できる」が5.1%上回っている。	・児童一人一人に予想を立てさせ、実験を行ったことが成果につながった。今後は生活の中で空気と水の性質に関するふしぎを探していくよう支援していく。 ・水や空気、金属のあたため方については理解しているが、冷やしたときの体積の変化については十分理解していないので、冷凍庫に入れた飲料がどうなるのか、興味をもって観察するよう声かけしていく。 ・モーターを使ったおもちゃ作りで意欲を高め、電気の実験へと移行することができたので、この流れで授業を展開していく。 ・光電池は、児童の予想と結果のギャップがあったので印象に残った。エコロジーにもつながる課題なので、丁寧に思考する時間を確保していく。
生命・地球	・「身の回りの生き物の冬のようなすがわかる」問題では県の平均正答率と比べて4.5%、「身の回りの植物の1年間の成長のようすがわかる」では2.6%、「植物の種類によって冬のようなすに違いがあることがわかる」では8.7%上回っている。 ・「気温を正しく計ることができる」問題では4%、「1日の気温の変化のようすを折れ線グラフに表すことができる」は0.2%、「1日の気温の変化の仕方から天気を推測できる」が2.7%、「コップの表面につく水滴は空気中の水蒸気が冷やされてできたということがわかる」が県の平均正答率より2.4%、「水の自然蒸発の実験結果を身近な現象と関連付けて考える」が1.2%、上回っている。 ・「方位磁針を使って月の方角を調べることができる」が4.8%、「月の1日のうちでも東から西へ動くことが分かる」が3.1%、「星が時間の経過に伴ってどのように位置が変わるのかわかる」が7.3%、「星の明るさと色はさまざまであることがわかる」は3.9%上回っている。	・実際に観察したり育てたりするなどの体験を通して、知識の定着を図っていききたい。 ・前学年で学習した内容の復習を行い、定着を図るようにしていく。 ・単元の終わりには、学習のまとめと振り返りの時間をとり、実験した結果や、そこから分かった考察を知識として定着できるようにしていく。 ・家庭での観察によるところが多いので、教室ではインターネットやデジタル教科書などICT教材も活用して、視覚に訴える授業を行っていききたい。

宇都宮市立緑が丘小学校第4・5学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が

○児童生徒質問紙から4年生で81.9%,5年生で88.9%の児童が授業でクラスの友達との間で話し合う慣れしていると回答した。授業の中で学び合いがよく行われている。本校は10年前から全ての教科において学び高まるよう小集団での話し合い活動を中心にした授業づくりを研究してきたことが成果につながっている。

○児童生徒質問紙から4年生で77.1%,5年生で95.6%の児童が「授業の終末で学習目標に照らした振り返っている」と回答した。授業の中で振り返る活動がよく行われている。本校は3年前から指導と評価の一体ともに、授業の展開について見通しを持たせるよう振り返る活動を進めてきたことが成果につながったと

●児童質問紙から5年生は進んで学習に取り組んでいる状況が伺えるが、4年生の学習意欲が県や市とい。学年全体で自主学習に取り組んでいるが、児童の学習意欲向上に結び付いていない。児童一人一人目標を立て、自己評価をするようになる。自主学習の積み重ねが目に見えるように「自主学習カレンダーカード」、「算数すらすらカード」を用い、記録していく。保護者の協力も得て励ましの声をかけてもらう。

●児童生徒質問紙から家や図書館での1日当たりの読書時間が4年生で30分以内、5年生で1時間以内回答であった。週2回の朝の読書や読み聞かせを継続するとともに、保護者の協力を得ながら親子読書かせ、「読書カード」等を用いて読書意欲を高めたい。

●児童生徒質問紙から4年生は、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりの勉強時間が1時間以上多い。昨年、陽南地域学校園で作成した「家庭学習のヒント集」を活用しながら家庭学習の習慣化を図る。個人懇談等で保護者にも家庭学習の習慣化への協力を呼びかけるようにしたい。

「見られるもの
行動を行って
合う力が

「返りを行っ
化を図ると
考えられる。

「比べて低
くが学習の
」や「音読

「が最も多い
に取り組ま

時間と少な
呆護者会や